

## 2018 米国薬学会にてポスター発表

2018年11月4日から7日に米国ワシントン D.C.にて開催された American Association of Pharmaceutical Scientists PharmaSci 360 に参加しました。本学会では薬剤学を中心としつつも非常に多岐にわたる分野の研究者が数多く集まり、最新の知見を発表されていました。また、企業ブースも多数出展されており、実験装置についても最新の話題を提供してくださいました。

私は化合物の薬剤性光線過敏症発現リスクを予測可能な評価系を構築する研究に従事しており「動物実験代替法としての光反応性および皮膚暴露の統合的解析による新規光安全性評価系」という演題でポスター発表を行いました。本研究では、動物実験を実施せずに光安全性評価を行うことを目的としており、本評価系を用いて十分な予測精度が得られると医薬品業界のみならず化粧品開発でも適用可能な評価系を提案することができます。実際に本研究に対して興味を持っていただいた方は多数おり、基礎的な話から経皮適用化合物の安全性評価法に関する話まで幅広い議論をすることができました。

会期中は多くの研究者とそれぞれの研究分野に関する議論ができ、新たな知見を得るだけでなく英語でのコミュニケーションスキルも向上していると実感できたと同時に未だ至らない部分が多くあることも痛感しました。海外で研究発表できた経験は研究者としての飛躍に繋がると感じており、このような機会をいただけたことに心から感謝いたします。



薬食生命科学総合学府 薬学専攻 薬物動態学講座  
博士課程 3年 猪山 陽輔